

平成27年度

学校自己評価表（報告）

学校運営計画			
学校運営方針	<ul style="list-style-type: none"> 教育目標の実現のために、教職員全員による協働体制を確立し運営に当たる。 開かれた学校づくりを推進し、生徒、保護者、地域との連携を図りながら、期待に応える学校づくりを進める。 生徒、教職員ともに心身の健康と資質の向上に努める。 		
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標	
(成果) ・地域の進学を担う高校としての役割を果たすため、長期休業期間の集中合宿、朝・放課後補習、進路希望及び学習の取組状況を分析する検討会など、生徒の進路実現に向けた取組を行なっている。その結果、大学等進学者数は昨年度同様であるが、今年度は複数の生徒が難関国公立大学へ進学することができた。 ・規律ある学校生活を生徒に送らせるため、規範意識の醸成を行なった結果、事象の発生を未然に防ぐことができた。 (課題) ・平成26年度目標である、国公立大学合格者70人の目標には、及ばなかったもので、更に問題点克服に努める。また、入学する生徒も多様化しているので、個を伸ばす取組も重視して行う。 ・規範意識や人権意識の醸成について、マナー等まだ徹底できていない部分もあるので、より発展させた指導を行う。	学力の向上	①授業を大切にす精神を養い、基礎学力の徹底した定着を図りながら、教科の高度化、応用に対応できる力を身に付けさせる。 ②朝学習の実施により学習に集中できる雰囲気醸成する。 ③家庭学習の充実、徹底を図る。	
	進路目標の明確化	①国公立大学、難関大学への指導研究をさらに推進し、志願率、達成率をあげて、進路実現を支援していく（国公立合格者75人を目指す）。 ②1学年早期の進路指導またキャリア教育を推進し、自らの進路を主体的に選択できる能力を育成する。 ③3年間を見通した進路指導体制をさらに充実し、学校全体できめ細かい指導、支援を組織的に行う。	
	生徒指導の推進	①スカート丈などの身だしなみをきちんとする。 ②安全教育を徹底する。 ③生徒会活動、部活動を充実させ、自己実現と連帯感を養う。	
	心身の健全発達	①健康管理に努め、心と体のバランスのとれた生徒を育成する。 ②他を思いやり、自らを律することができる強い心を養う。 ③学校環境の整備と美化に努め、奉仕の精神、愛校心を養う。	
重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
生徒指導	正規の制服の着用	制服異装・茶髪・アクセサリ類等の指導を定期的に行い、正規の状態に復するよう指導する。全職員に取り組む内容を示し、協力を得てこれにあたる。	B B
	不審者事件に巻き込まれないための指導	各集会、SHRを通じて事件に当たったの対処の仕方や身だしなみの大切さを含め注意を喚起し、不審者情報についてリアルタイムで情報を提供する。	A A A
	持ち物の自己管理の徹底	個人用ロッカーの使用を徹底し、持ち物の自己管理を喚起する。	A A
	交通安全の意識を高める	自転車点検、街頭指導、交通指導等により、交通マナーを向上させ事故の未然防止に努める。	A A
進路指導	(進学指導) 各学年と協力して生徒の進路実現を目指す。	①進路情報を学校外部より収集し、受験環境を分析する。分析した情報を、校内の各部と連携を取りながら学年に提示する。 ②入試情報を積極的に収集する。また学年担当との連絡を密にして、各学年への確かな情報の提供を行う。さらに、積極的に進路指導方法に提言を行う。 ③進路指導室の機能と進路指導部の充実を図る。	B B
	(就職指導) 就職希望者の適性を生かした進路実現をはかる。	①今日の社会情勢を鑑み、求人動向を把握させる。 ②社会人、職業人としての意識の確立をはかる。 ③面接指導・作文指導の充実。外部講師によるガイダンスなどの実施。公務員模擬試験の実施。 ④求人票と生徒の希望のミスマッチが出ないように配慮して、職場開拓につとめる。 ⑤採用試験に向けて具体的指導に取り組む。 ⑥内定者への指導として、社会人・職業人としての教養を身につける指導に取り組む。 ⑦未内定者へのミスマッチのないきめの細かい指導と、職場開拓に努める。	A A
	(1学年) 将来の職業と進路について考えさせる。	進路に関する自己理解を、HR、個別面談、進路講演等を利用して深めさせる。自己の適性と進路に関する意識を高めさせる。	A A
	(2学年) 進路目標の実現のために進路計画を立てる。	①進路研究を通してキャリアに関する知識を深めさせる。 ②将来の進路を見据えて段階的に進路計画を組み立てさせる。 ③修学旅行を通じて現在の学習と進路先との結びつきを考えさせる。	A A
	(3学年) 目標達成に向けた取り組みを支援する。	①個別面談、進路ガイダンス等きめ細かい指導をより充実し、各自の進路希望を具体化させる。	A
		②進路希望の実現に向けて努力させる。	A
	①入試傾向についての的確な情報の提供を行う。	A	
	②各教科の学力補強のほかに、小論文や面接、口述試問対策などを充実させる。		

学習指導	(進路指導) 学年、教科と密接な連携を図り、生徒への効果的な学習支援に努める。	① 生徒の個別の相談や、「進路ガイダンス」により、きめの細かい指導をより充実させる。 ② 「進路の手引き」や各種資料を活用したり、「進路レポート」の作成を通して、各自の進路希望をより具体化させ、学習時間の確保につなげていく。 ③ 模試の結果分析を行い、各教科偏りのない学力強化を図る。小論文・面接指導の充実に役立つ情報を担任・生徒の両者へ提供し、その指導に積極的に関わる。	A	A	A
	(教務部) 学力の向上と進路希望の達成に向けた学習環境整備に取り組む。	① 生徒の学習効率を考えた、時間割編成や行事計画作成を行う。	A	A	
		② 行事や休日に伴う曜日間の多寡に柔軟に対応し、各教科の授業計画に支障が出ないよう配慮する。	A		
		③ 特別教室や空き教室の効率の良い利用状況に配慮し、授業や補習授業、生徒の自習等に活用しやすいようにする。	A		
	(1 学年) 家庭学習の習慣を確立させる。	① 「宿泊オリエンテーション」実施し、効果的な予習、復習の家庭学習のやり方を具体的に指導し、学習効率のアップを図る。	A	A	
		② 「学習時間の記録」を定期的実施し、生活時間を見直し、学習時間の確保を図る。「朝学習」を継続的に実施し、学力の基礎を構築する。	A		
	(2 学年) 授業を中心とした学習計画をもとに学力の養成に努める。	① 学習計画表をもとに日常的学習習慣を形成させる。 ② 課題提出や家庭学習などの基本的な学習習慣を通して学力を身につけさせる。 ③ 部活動と学習のバランスを考えた効果的な学習指導をする。	A	A	
	(3 学年) 基礎学力強化と応用力養成に努める。	① 各自の到達目標を明確にさせ、進路目標達成に結びつける。	A	A	
		② 授業、補習、学習合宿等で苦手科目の克服、基礎力強化、応用力の育成を図る。	B		
	(生活文化科) 各コースの専門的な知識と技術の習得をはかり、職業観の育成や進路実現に向けて自ら学ぶ意欲と態度を育てる。	① 家庭科技術検定をはじめとする各種検定の合格を目指し、専門性の高い授業実践に力を入れる。	B	B	
② 卒業生や外部講師による講話や体験授業を取り入れ、具体的な進路探究や職業観を養い、進路実現に役立てる。		B			
③ 実験・実習の授業を通し、コミュニケーション能力を養う。		B			
(図書指導) 読書に親しみやすい環境を整備する。	① 新入生オリエンテーション、読書週間、読書体験感想文、カルタ大会等を活用し、活字に親しむよう指導する。	B	B		
	② 授業等で図書館を活用できるような環境を整える。	B			
(視聴覚指導) 視聴覚機材を活用した授業展開が可能な環境を整える。	① 機材の安全かつ利便性のある保管場所を設ける。視聴覚機器を活用した、生徒にわかりやすい授業運営が可能な環境を整える。	B	B		
	② 視聴覚教室と準備室の整備を進め、授業等で積極的活用できるようにする。	B			
特別活動	(教務部) 学校行事を通して、学校生活に対する生徒の意欲を高める。	① 実授業時数の確保を考慮しながらも、生徒が主体的に参加できる学校行事を計画し、その内容を充実させるために、関係の係りの連絡を密にする。 ② 各学校行事が、その目的を達することができるように、バランスのとれた年間計画を作成する。	A	A	
	(生徒会指導) ① 生徒会行事の円滑な運営 ② 生徒会予算、クラブについての見直し	① 各種生徒会行事を計画的に企画を立て、運営を行う。各担当者は生徒会総務と連携し行う。	A		
		② 生徒会予算の内容、クラブの統廃合に関しての検討を行っていく。	A		
		③ 部活動離れの原因追及・加入率の向上を目指す。	A		
(同和教育推進委員会) ① 学校全体に人権・同和教育の方向性を示す。 ② 人権・同和教育実践を継続する。	① 同和教育ニュース『かがやく』の発行や、職員研修等を通して人権意識を全体に浸透させ、人権・同和教育の質の向上を目指す。	A	A		
	② 総合的な学習の時間を利用し、『生きる』シリーズを活用しながら同和教育を実践し、差別を見抜き許さない心を育てる。	A			
健康な心身の育成	(保健・体育指導)	健康診断を確実に実施し、生徒の健康課題を明らかにし、全職員で共有する。	A	A	
	① 心と体のバランスの取れた生徒を育成するため、保健管理、保健指導を組織的に推進する。 ② 健康・安全や運動について理解させ、生涯にわたって積極的に運動に親しむ資質を育て、強健な身体を育成する。	生徒の健康課題解決のため関連教科や外部機関と連携し、保健指導や健康相談を実施する。	A		
		学習に適した環境を整え、生徒の美化意識を高める。	B		
		保健・体育活動を通して自他を敬愛できる生徒を育てる。	A		
		体力テストの結果から個々の体力を確認し、領域における各種目やマラソン大会、さらには年間を通した体育授業時の補強運動を実施することで体力の向上を図る。	B		
スキー授業や選択制体育・体づくり運動の実践から、生涯にわたって計画的に運動に親しみ、スポーツを通してコミュニケーションを深める資質を育成する。	A				
PTA活動	(渉外部) 社会人への準備期間として、ふさわしい人格形成に向けたPとTの協力体制を作る。	開かれた学校作りの推進のため、校内各分掌・各学年と生徒・保護者・地域の有機的な連携が図れるよう調整にあたる。	A	A	
		土曜日開催のPTA総会に多くの保護者の皆様から参加してもらえるよう企画・運営する。	A		
		教養委員会・進路委員会・広報委員会の活動が有意義なものになるようサポートする。	A		
成果	・地域の進学を担う高校としての役割を果たすため、1年生学習オリエンテーション、長期休業期間の集中合宿、朝・放課後補習、進路希望及び学習の取組状況を分析する検討会、土曜講座など、生徒の進路実現に向けた取り組みを計画通り行った。その結果、国公立大学合格者数は63名となり、目標には届かなかったものの多くの生徒の進路希望を実現できた。 ・規律ある学校生活を生徒に送らせるため、街頭指導や制服の着こなし指導などを定期的実施して、規範意識の醸成に努めた。その結果、基本的な生活習慣を身につけさせる指導がしっかりと行っていると応える生徒の割合が大きく上昇した。		総合評価		
			A		